

## 納めしろ付継枠

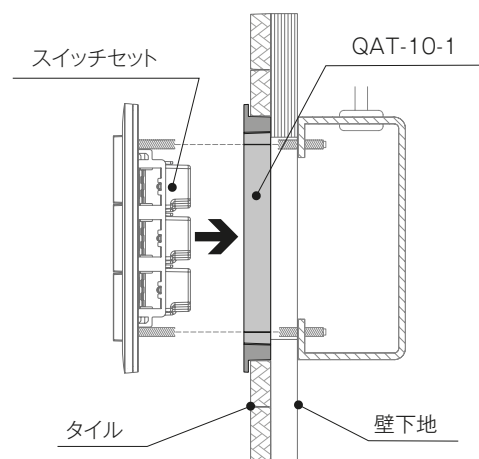
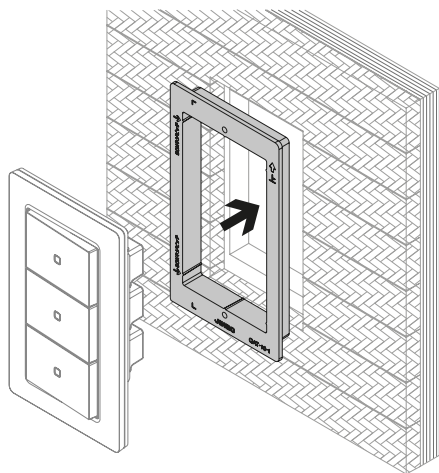
| 1連用    | QAT-10-1 CLR | 1連用    | QAT-10-1 CGY | 2連用    | QAT-10-2 CLR | 2連用    | QAT-10-2 CGY |
|--------|--------------|--------|--------------|--------|--------------|--------|--------------|
| ¥2,600 |              | ¥2,600 |              | ¥3,600 |              | ¥3,600 |              |
| 3連用    | QAT-10-3 CLR | 3連用    | QAT-10-3 CGY |        |              |        |              |
| ¥4,600 |              | ¥4,600 |              |        |              |        |              |
|        |              |        |              |        |              |        |              |

| 製品番号     | A寸法 | B寸法 | C寸法 |
|----------|-----|-----|-----|
| QAT-10-1 | 69  | 53  | 58  |
| QAT-10-2 | 115 | 99  | 104 |
| QAT-10-3 | 161 | 145 | 150 |

## 製品概要

- ・本製品は配線器具（スイッチやコンセント）を直接取り付けるのが困難なタイルや凹凸のある場所に当社の配線器具を確実に取り付けるための屋内専用の継枠です。
- ・壁表面の強度や凹凸の影響を受けずに配線器具を壁下地に安定して取り付けることができるため、取付時のネジ締めによるタイルの割れや壁面凹凸による配線器具の傾きを防止することができます。
- ・錨（つば）状に設けた納めしろにより、本製品の外形に対してタイル等の切り欠き寸法を一回り小さくできるため、コバ面を製品外形で隠蔽することができます。

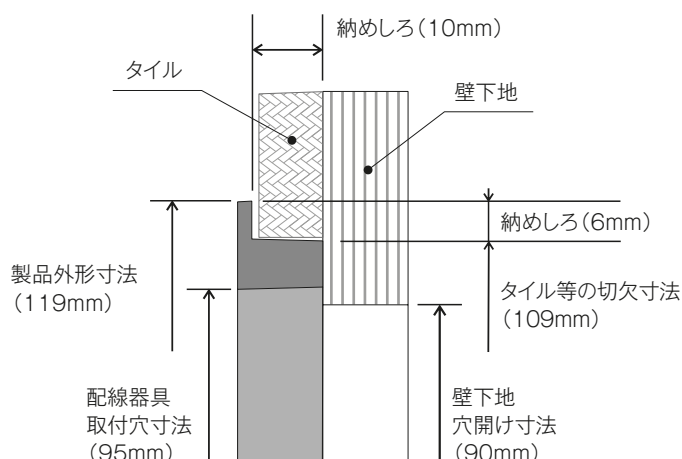


## 施工前確認事項

### <ご注意>

本製品は施工の仕上がりをよくするため  
各加工寸法の余裕を少なくしていますので、  
施工時は下記の点にご確認ください。

- ・埋込ボックスの傾きに対し  
配線器具での補正可能範囲が小さいため、  
ボックス取付時の水平出しを  
確実に実施してください。
- ・壁下地への穴開けは、配線器具取付穴より  
小さく加工してください。  
穴が大きい場合、壁下地との接触面積が不足し、  
配線器具取付時に継枠ごと壁にめり込む恐れが  
あります。



### <各目印について>

#### ・三角目印 (突起)

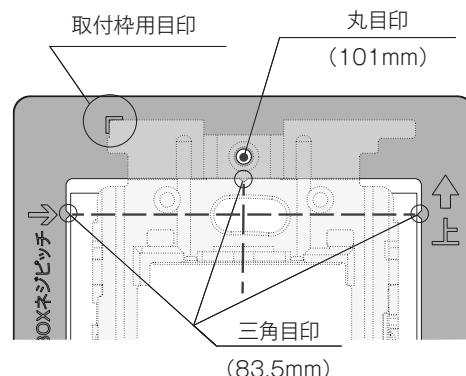
配線器具を取付けるボックスネジピッチ (83.5mm) 位置を示す、  
継枠を埋込ボックスの中心に取り付けるための目印です。  
三角目印の交点と埋込ボックスのネジ穴の中心を合わせて使用します。

#### ・取付枠用目印 (凹文字)

推奨取付枠使用時に取付枠左端の位置を示す上下1組の目印です。  
上部用：┐、下部用：└ があります。  
(推奨以外の取付枠では位置が異なる場合があります。)

#### ・丸目印 (貫通穴)

推奨取付枠使用時にプレート用 101mm ピッチ位置を示す目印です。  
取付枠用目印が利用できない場合にも利用できます。  
(推奨以外の取付枠では位置が異なる場合があります。)



## 製品情報一覧

| 製品番号                       | QAT-10-1                                       | QAT-10-2             | QAT-10-3               |
|----------------------------|------------------------------------------------|----------------------|------------------------|
| 適用プレート                     | 連用プレート (1連)                                    | 連用プレート (2連)          | 連用プレート (3連)            |
| 推奨取付枠                      | BS-C、BS-K、NWS-C、NS-C (当社製調光器およびコンセント等の枠一体品も含む) |                      |                        |
| 推奨はさみ金具※<br>(JIS埋込ボックスも対応) | 8651                                           | 8652CT               | 8653CT                 |
| 製品外形寸法 (mm)                | 幅 69× 高さ 119× 厚み 12                            | 幅 115× 高さ 119× 厚み 12 | 幅 150.5× 高さ 119× 厚み 12 |
| タイル等の切欠寸法 (mm)             | 幅 59× 高さ 109                                   | 幅 105× 高さ 109        | 幅 151× 高さ 109          |
| 配線器具取付穴寸法 (mm)             | 幅 54× 高さ 95                                    | 幅 100× 高さ 95         | 幅 146× 高さ 95           |
| 壁下地穴開け寸法 (mm)              | 幅 53× 高さ 90                                    | 幅 99× 高さ 90          | 幅 145× 高さ 90           |
| 納めしろ (mm)                  | 製品外形より全周6 / 壁下地より高さ10                          |                      |                        |
| 推奨タイル厚                     | 8mm以上 (タイル厚が薄い場合は壁面とスイッチ取付面の隙間が大きくなります)        |                      |                        |

※次のはさみ金具は使用できません。8661、BH-6、BH-12、BH-18、BS-P-1、BS-P-2、BS-P-3  
他社製品の使用可否は各メーカーにご確認ください

## 施工手順

本製品の施工においては、左官工事として壁際に固定する場合と、電気工事で取付補助具として用いる場合がありますが、配線作業の有無を除いて本製品の取付作業での違いはありません。

### 1. 位置合わせ

本製品は、埋込ボックスの場合は埋込ボックスの中心、はさみ金具の場合は、壁の開口穴の中心に合わせて配置します。

#### 埋込ボックスの場合

三角目印を目安にして埋込ボックスの中心に配置することができます。

#### はさみ金具の場合

目印はないため、壁下地への接触面積のバランスを見て左右、上下のバランスのいい位置で配置します。

#### <三角目印>

内側にある三角の目印で対面の目印と対になっており、図1のように各目印を結ぶ仮想線の交点を埋込ボックスのネジ穴に合わせて配置すると埋込ボックスの中心に配置できます。

※丸目印は配線器具を本製品の中心に配置するための目印

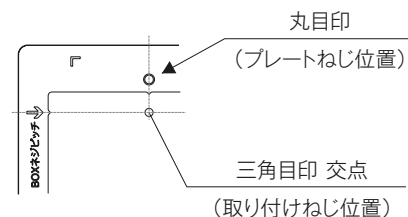


図1.三角目印での位置合わせ

### 2. 墨出し

本製品の位置合わせが完了したら、タイル等を切り欠く際の基準線を図2のように壁下地との接触面に沿って印をつけます。

#### <埋込ボックスの水平が出ていない場合>

既設の埋込ボックスが傾いている場合は、中心位置を確認し、本製品を水平になるように微調整してください。

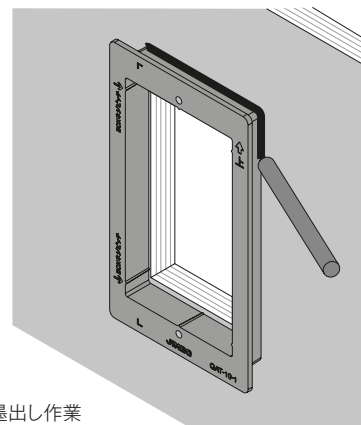


図2.墨出し作業

### 3. 左官・タイル工事

墨出した線を目安に、左官やタイル工事を行います。

本製品との干渉を回避するため、タイル工事では図3のように線が隠れない様に1mmほど離して使用するタイルの説明書に従い施工してください。

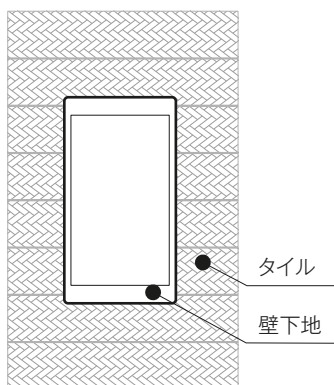


図3.タイル張り上げ

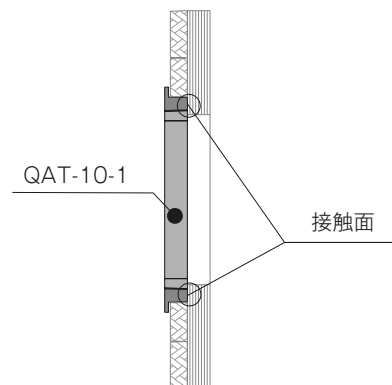


図4.壁との接触面

## 施工手順

### 4. 継棒の取り付け

左官工事やタイル工事で本製品を壁の一部として取り付ける場合は、タイル等の施工説明書に従って所定の接着剤等で貼り付けてください。(特に指定のない場合は、製品裏面の両面テープで貼り付け) また、配線器具と共締めで使用する際は、インパクトレンチなどで締め付けると割れる恐れがあります。

### 5. 配線器具の取り付け

配線器具を取り付ける際は施工収まりをよくするために、取付棒を継棒の中心に取り付けてください。

図5のように「丸目印」か「取付棒用目印」を使用することで、取付棒を継棒の中心に配置できます。

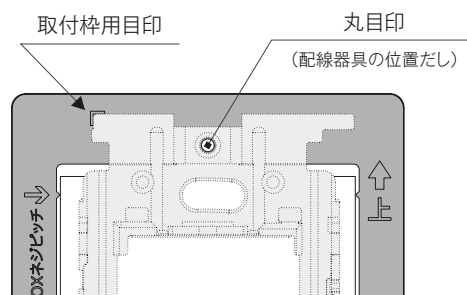


図5.各目印の使い方

#### 丸目印

取付棒のプレート用ねじ穴(101mmピッチ)と合わせて使用します。

#### 取付棒用目印

図5の様に取付棒の左端に合わせて使用できます。  
(推奨取付の場合のみ使用可能)

#### <位置合わせが不十分だった場合>

図6の様に化粧プレートから不自然に継棒がはみ出した状態になります。(図7は正しく取り付けた場合)

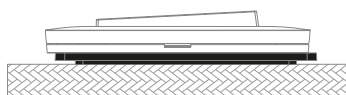


図6.位置合わせ失敗

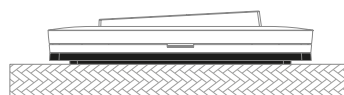


図7.位置合わせ成功

#### <注意>

- ・ 本製品を使用する場合、配線器具の取付面が壁下地より12mm手前になるため、壁下地の厚みによっては埋込ボックスの付属ネジでは長さが不足する場合があります。
- ・ 電気工事を回避するために配線器具を接続したままで取り付ける場合、一般的な住宅配線はVVFなどの単銅線が使われていますので電線の曲げ伸ばしによる断線に注意してください。
- ・ 電線の接続、および取り外しには電気工事士の免許が必要です。



図8.完成イメージ